

日興キャッシュリッチ・ファンド

設 定 日 : 2005年4月15日

償 還 日 : 無期限

決 算 日 : 原則4月15日

収 益 分 配 : 決算日毎

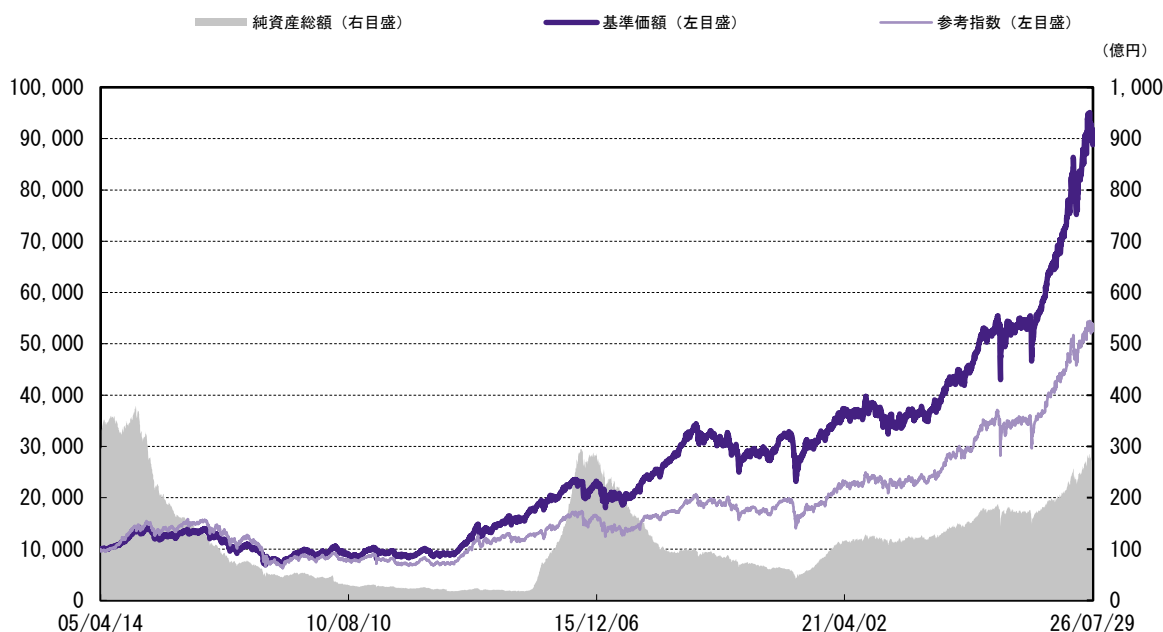
基 準 価 額 : 85,617円

純資産総額 : 273.51億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運 用 実 績

<基準価額と純資産総額の推移>



※参考指数は「TOPIX（東証株価指数）配当込み」です。

※TOPIX（東証株価指数）に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPM総研または株式会社JPM総研の関連会社に帰属します。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

※基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

※設定時を10,000として指数化しています。

<基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-3.29%	7.95%	18.46%	46.64%	106.12%	799.46%
参考指数	0.22%	7.59%	13.57%	39.16%	84.94%	431.65%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金実績（税引前）>（円）

22/4/15	23/4/17	24/4/15	25/4/15	26/4/15
100	0	0	0	0

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポ ー ト フ ォ リ オ の 内 容

<資産構成比率>

株式	96.5%
うち先物	0.0%
現金その他	3.5%

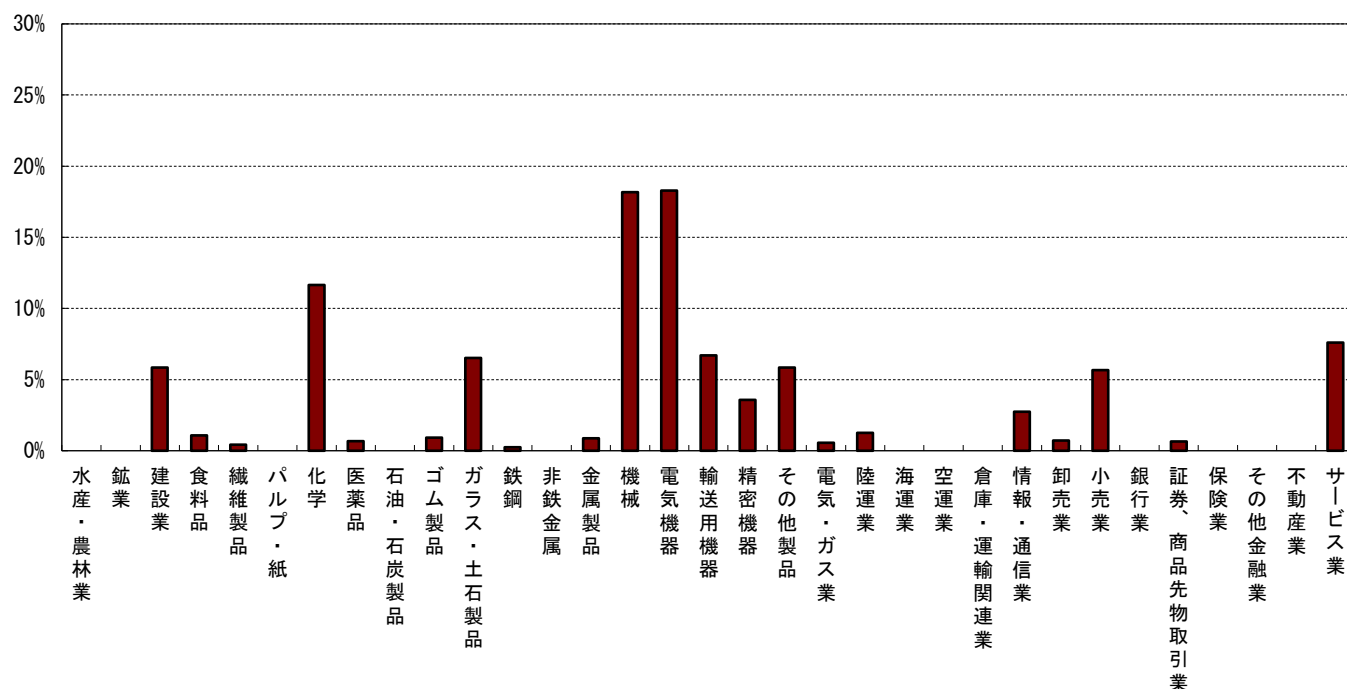
<組入上位10銘柄> (銘柄数 106銘柄)

	銘柄	業種	比率
1	ソニーグループ	電気機器	3.96%
2	村田製作所	電気機器	2.67%
3	信越化学工業	化学	2.06%
4	リクルートホールディングス	サービス業	2.05%
5	ナブテスコ	機械	1.91%
6	スズキ	輸送用機器	1.86%
7	ノリタケ	ガラス・土石製品	1.72%
8	ニチアス	ガラス・土石製品	1.69%
9	SMC	機械	1.68%
10	PILLAR	機械	1.65%

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

<業種別構成比>



<市場別構成比率>

プライム	94.1%
スタンダード	5.0%
グロース	0.8%
その他	0.0%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
500億円未満	0.8%
500億円以上 1,000億円未満	8.1%
1,000億円以上 2,000億円未満	12.2%
2,000億円以上 3,000億円未満	12.3%
3,000億円以上	66.6%

※「組入上位10銘柄」「業種別構成比」「市場別構成比率」「規模別構成比率」は、マザーファンドの状況です。

※「資産構成比率」「組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

※「業種別構成比」「市場別構成比率」「規模別構成比率」は組入銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

7月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス0.21%、日経平均株価が同マイナス8.14%となりました。政府が閣議決定した「骨太の方針」で成長重視や投資推進の姿勢が示されたことを受けて外国人投資家の資金流入に伴う幅広い買いが入った一方、中国の新型人工知能（AI）モデルの発表を機に米国市場でAI過剰投資や競争激化への懸念から米国の主力株が下落し、その流れが日本市場の半導体関連銘柄を中心とした売りへと波及したことなどから、国内株式市場はまちまちの動きとなりました。

東証33業種分類では、海運業、ゴム製品、鉄鋼などの25業種が上昇する一方、非鉄金属、ガラス・土石製品、電気機器などの8業種が下落しました。

◎運用概況

7月末の株式組入率は96.5%としています。組入銘柄については、業界内において相対的に流動性の高い資産を多く保有するなど資金（資本）に比較的余裕があり、自社の手持ち余裕資金を使い事業拡大を進める、もしくは株主還元策を実施する可能性が高い割安企業への投資を実施しています。当月は、相対的な割安度合いが薄まった株式（卸売株、化学株、機械株の一部等）を売却し、株価に出遅れ感がある企業や業績回復確度が高まったことなどにより割安感が出てきた株式（情報・通信株、ゴム製品株、輸送用機器株の一部等）の買い付けを実施しました。

◎今後の見通し

株式市場は、過剰投資懸念などからAI・半導体関連銘柄の株価変動が大きくなっているものの、その他のカテゴリーの好業績銘柄に物色が広がっていることから、底堅い推移となっています。短期的には、米国ハイテク企業の株価動向や、日米の金融政策、中東情勢などによって不安定な動きとなる局面も想定されますが、好調な企業業績が続いていることに加えて、企業が株主還元と成長投資をともに積極化する姿勢を強めていることから、徐々に上値を切り上げる株価推移が続くとみられます。また、中期的には、日本経済が物価と賃金の双方が上昇するインフレ経済に転換したことや、日本企業が事業構造と余剰資金の見直しを進め、資本効率を重視した経営を推進していることなど、マクロ・ミクロ両面の構造変化を背景に、株式市場の上昇基調は今後も維持され则认为しています。

当ファンドは、キャッシュを中心とした、比較的換金しやすい資産を相対的に多く保有する割安銘柄に投資するファンドであることから、景気動向に非常に敏感な、負債が多い企業群には投資できないという特色があります。引き続き、個別企業の業績動向や経営方針の変化等に注目し、保有する豊富な現金や生み出されるキャッシュフローを使って事業の拡大や効率化を進める、もしくは株主還元を実施する可能性が高い企業の割安局面をとらえた投資を行なってまいります。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 株主価値重視への経営姿勢の転換などが見込まれる企業に投資します。

財務データ分析などの定量評価に加えて、企業訪問を中心としたボトムアップリサーチを行ない、株主価値を重視する経営姿勢への転換などにより株価の値上がりが期待される銘柄に投資します。制度改正による企業再編の加速化など、外部環境変化による株主価値重視プロセスも勘案します。

2. わが国におけるキャッシュリッチ企業の株式を中心に投資を行ないます。

現金など流動性の高い金融資産*を多く保有する企業（＝「キャッシュリッチ企業」）の中から、割安と判断される株式を主な投資対象とします。

* 流動性の高い金融資産＝流動資産など－有利子負債
例）現預金、有価証券など

3. バリュース株（割安株）に焦点を当てた独自の調査・運用体制により、株式市場において見過ごされている銘柄の発掘に努めます。

財務データ分析などの定量評価だけでなく、セクターアナリストおよびバリュース株（割安株）調査・分析に特化した“バリュースタイルアナリスト”による徹底的な取材などに基づく定性評価を行ないます。

証券会社や他の機関投資家などの調査対象に十分組み込まれていない企業に関しても、独自に調査を行なうことにより、投資価値を判断します。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	無期限（2005年4月15日設定）
決算日	毎年4月15日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜申込時、換金時にご負担いただく費用＞

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3%）以内
※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 換金時の基準価額に対し0.3%

＜信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用＞

運用管理費用（信託報酬） ファンドの日々の純資産総額に対し年率2.057%（税抜1.87%）

その他の費用・手数料 監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

- 流動性リスク
- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 信用リスク
- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

- その他の留意事項
- 当資料は、投資者の皆様へ「日興キャッシュリッチ・ファンド」へのご理解を高めいただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
 - 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
 - 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
 - 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
 - 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認くださいのうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○	
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○		
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券 ※右の他に、以下にも加入 一般社団法人日本STO協会 一般社団法人日本暗号資産等取引業協会 日本商品先物取引協会 株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券） （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○
株式会社熊本銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第6号	○		
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2938号	○		
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第5号	○	○	
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第3号	○		
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○
株式会社福岡銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第7号	○	○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○	○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。